

## 戦略の推進方法

～ 推進主体と役割の発揮 ～

県民運動としての地産地消を実現するには、農林漁業者はもとより、関係団体、経済界、県民や市町村等がそれぞれの立場を認識し、取り組んでいくことが重要です。

県では、これらの幅広い関係機関・団体等の連携を図り、県民ぐるみの運動を推進するため、「とやま地産地消県民会議」を平成21年6月に設置しています。

## 地産地消の効果

～ 目指す姿 ～

- 地域経済の活性化(生産と消費の好循環)
- 県民への新鮮で安全な食の提供
- 生産者と消費者との顔が見える関係づくり
- 地域の食材を活用した伝統的な食文化の継承
- 県民の農林水産業への理解促進
- 輸送距離の短縮による環境負荷低減
- 食を通じた地域の魅力発信による関係人口の拡大



### 地産地消「とやまの旬」応援団

皆さんの地産地消活動でとやまの農林水産業を応援しませんか？

地産地消を、県民ぐるみの幅広い運動としていくため、積極的に取り組む企業・団体、個人を「とやまの旬」応援団として募集しています。

詳しくは、下記までお問い合わせください。



### 地産地消アプリ「食ベトクとやま」

地産地消や旬の食材に関する情報やイベントのお知らせ等を受け取れるほか、キャンペーンなどの参加にも活用できるアプリです。

アプリの詳細(ダウンロード)はこちら



おいしさキトキトとやま産



第3期



# とやま地産地消推進戦略

地産地消運動の推進による  
農林水産業の振興



園芸作物の生産力の強化・拡大  
(キャバツの定植作業)



つくり育てる漁業の推進  
(クロダイ種苗の放流)



農村女性の起業支援と発展段階に応じた支援  
(なやマルシェ)



産地と給食関係者の連携強化  
(栄養教諭等による産地視察)

# 第3期 とやま地産地消推進戦略の概要

基本目標：地産地消運動の推進による農林水産業の振興 計画期間：令和4年度～令和8年度

地産地消に関する国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」



目標数値は、現状値(特段の表記がなければR2年度) → 目標値(R8年度)と表記しています。

【趣旨】農林水産業や農山漁村を取り巻く情勢の変化や、新型コロナウイルス感染症の拡大により県民の食に対する意識・関心が高まる中、長期的展望に立つて、安全・安心な県産品の生産・供給及び消費の拡大に県民運動として取り組むための方向と施策を明示するものです。

## I 生産・供給体制の強化 ～食料自給率の向上～

### ① 県民の食を支える農林水産物の生産拡大

- ▶ 高品質で選ばれる米づくりの推進
- ▶ 園芸作物の生産力の強化・拡大
- ▶ つくり育てる漁業の推進

● 園芸産出額(いも類含む)  
93億円 → 120億円  
《参考指標》  
「富富富」の生産目標  
1,282ha → 2,000ha(R7)



### ② より安全な県産品の生産体制の確立

- ▶ GAPの普及推進等による安全・安心で高品質な農産物の生産拡大
- ▶ 持続可能な環境にやさしい農業の推進
- ▶ 安全で良質な水産物の安定供給
- ▶ 衛生管理の徹底による安全な食品の安定供給



登録番号160000012



● GAPの認証取得経営体数  
52経営体 → 80経営体

### ③ 直売や契約的な生産販売の拡大

- ▶ 直売所等による地域の農林水産物の生産・販売体制の確立
- ▶ 消費者や実需者等と連携した契約的な生産・流通体制の確立



● 直売所・インショップの販売額  
38.1億円 → 45億円

### ④ 中山間地域の特色ある農産物の生産

- ▶ 地域資源を活用した新たな農産物の産地育成

● 中山間地域等直接支払制度協定締結集落数  
404集落 → 400集落以上



## II 高付加価値化と消費拡大 ～評価・認知度の向上～

### ⑤ 6次産業化や農商工連携による魅力ある商品・サービスの提供

- ▶ 6次産業化や農商工連携に取り組む農林漁業者の育成と収益性の向上
- ▶ 農村女性の起業支援と発展段階に応じた支援
- ▶ 農福連携の推進と多様な関係者のネットワークの構築による新たな価値の創造



● 6次産業化による年間販売金額  
109億円(R1) → 120億円  
● 農商工連携認定数(食に関する延べ件数)  
92件 → 120件  
● 農村女性起業数(農村女性が主体の直売・加工等の個人・グループ数)  
190件 → 210件  
● 新たに農福連携事業に取り組む事業者数(延べ)  
1事業者 → 12事業者



### ⑥ 県産品の高付加価値化

- ▶ とやまの食のイメージアップ
- ▶ 「とやま和牛」のブランド化推進
- ▶ 「富山のさかな」のブランド化推進



● 「富山県ふるさと認証食品」新規認証数(年間)  
7商品 → 10商品程度  
● 酒粕を給与した和牛  
21頭 → 500頭

### ⑦ 食文化の伝承・創造と魅力発信

- ▶ とやまの食文化を伝承・創造する人材による技の継承
- ▶ 多様な機会を捉えた「とやまの食」の魅力発信
- ▶ 県産食材の県内外への販路拡大

● 「とやま食の匠」の伝承活動参加者数  
40人 → 400人以上  
● 県産食材提供協力店舗数(県内)  
1,466店(R3) → 1,700店



## III 生産者と消費者の活動促進 ～県民運動の展開～

### ⑧ 県民運動としての気運高揚

- ▶ 若者を含めた幅広い世代に向けた県産品の利用拡大を促進する機運醸成
- ▶ 地産地消の取り組みや魅力ある食の情報発信

● 県産品を意識して購入する人の割合  
56.7%(R3) → 80%  
● 「食ベトクとやま」ユーザー数  
1,410人(R3) → 8,000人  
● 越中とやま食の王国ホームページの閲覧件数(月平均)  
20,000件 → 30,000件



「越中とやま食の王国」ホームページはこちら



### ⑨ 学校給食などでの県産食材活用拡大

- ▶ 学校給食を通じた県産食材への理解増進
- ▶ 産地と給食関係者(施設給食、社食を含む)の連携強化による県産食材の活用拡大

● 学校給食における県産食材の活用率  
25.1% → 32.0%



### ⑩ 交流活動の支援

- ▶ 農林漁業者と都市住民の交流拡大
- ▶ 多様な人材の参画による農山漁村の活性化

● 農林漁業等体験者数(延べ人数)  
70,005人(R1) → 74,200人

